

<全国納税貯蓄組合連合会優秀賞>

## 税という架け橋

いわき市立草野中学校 3年 野木 日々季

「消費税って何で払わなければいけないんだろう」と今まで思っていた。未成年の私は消費税しか払っていないけれどそれにも、少し不快感をもっていた。しかし、今回の新型コロナウイルスが流行したことによってその考え方が大きく変わった。

新型コロナウイルスの莫大な感染の流行により緊急事態宣言が出された。緊急事態宣言が出されたことで会社の休業や学校の休校が余儀無くされた。家に居る時間が長くなったということはお金の消費が多くなる。生活困難な状況に陥る人も多かったのではないか。そんな時、政府から十萬円の特別定額給付金があった。「そんなお金どこにあるんだろう。」と不思議に思い、祖父に聞いてみると「税金」と言われとても驚いた。今までに私が払った消費税も大人の人たちが納めてきた沢山の税金がここで使われた。計算すると約千億円以上になる。「もし、税金を払っていなかったら」と思うとぞっとする。なくならなくてもいい命がなくなってしまう。税金で助けられた命も沢山あるだろう。つまり、税金は「未来の保険」であり「投資・貯金」なのだ。また、この日本・世界は税金がとても重要な役割をしていて欠かせないものだと思う。こう考えると、今までもっていた不快感がなくなっていく。確信はもてないが、「税金」というものは世界を平和にするための初めの一歩だったのかもしれない。

「税金」というのは、このような緊急事態だけではなく沢山のところで使われている。私たちの教育費が無償なのも、大人の人たちが今まで税金を納めて下さったおかげだ。感謝をしなければいけないと思う。私が大人になったらしっかり税金を納めて私たちのために税金を納めて下さった人に恩返しをしたい。生活を支える「年金」という形で。税金は、「未来の保険・貯金・投資」であると共に「人と人を結ぶ架け橋」にもなっていると思う。大人から子供に、大人になった子供から高齢者になった大人へとつなぐ「税金のリレー」といえるのではないだろうか。人とのつながりは目に見

えないけれど、「教育費」と「年金」という形でつながっている。

「税金」を払うことに不満をもっている人は多少いるだろう。スウェーデンのように二十五パーセントもの消費税を払っている国もあり、そこは社会保障も充実している。税金の使い方が明確であれば不満をもつ人も少なくなるのではないだろうか。「税金」についてよく知り理解することで税金を使う意義が見えてくると思う。税金を払うのは義務であって、自分の未来を守るための約束である。また、誰かを助けるためにもあると思う。税金が社会に欠かせないものであるということを作文を書いている中で実感した。もしかしたら、今、あなたの払った税金が誰かの命を救っているかもしれない。